

# 平成22年国勢調査 従業地・通学地集計 奈良県結果の概要

## 1 従業地・通学地別人口

～平成17年に比べ従業・通学する人の割合は低下～

本県の総人口に占める従業地・通学地別人口の割合は、「自市町村(自宅)」が4.4%、「自市町村(自宅外)」が23.9%、「他市町村(県内)」が15.0%、「他市町村(県外)」が15.7%、「従業も通学もしていない」が41.0%となっています。

平成17年より、「自市町村(自宅)」が0.7ポイントの低下、「自市町村(自宅外)」が1.2ポイントの低下、「他市町村(県内)」が1.0ポイントの上昇、「他市町村(県外)」が0.1ポイントの低下となり、平成17年に比べ従業・通学する人の割合は低下しています。一方「従業も通学もしていない」は上昇しています。

図 従業地・通学地別人口の割合(H17年、22年)

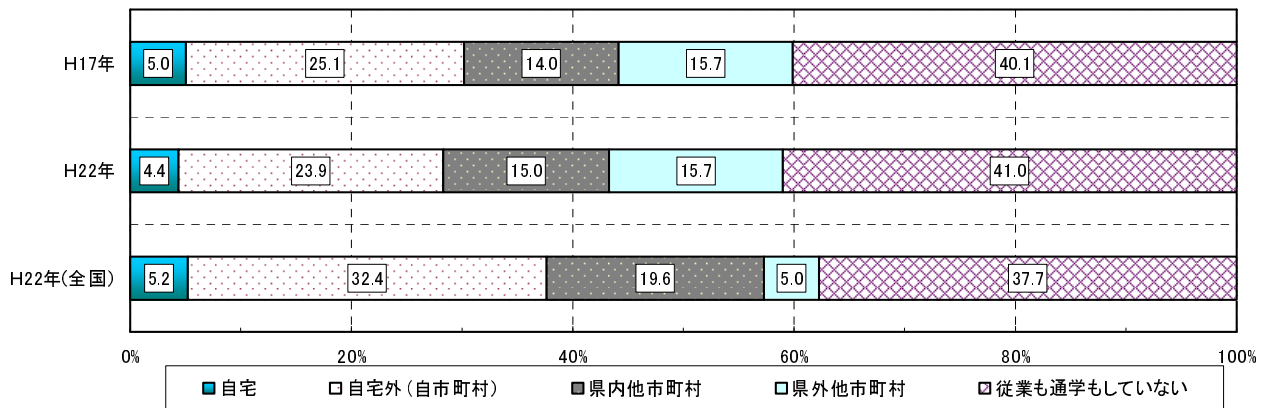


表 従業地・通学地別人口及び就業者・通学者数(H17年、22年)

従業地・通学地	就業者・通学者数(人)		割合(%)		ポイント差 17年～22年
	17年 <sup>1)</sup>	22年	17年	22年	
夜間人口(常住人口)	1,419,366	1,400,728	100.0	100.0	0.0
従業も通学もしていない	562,894	545,455	40.1	41.0	0.9
自市町村	423,074	376,012	30.2	28.3	-1.9
自宅	70,698	57,984	5.0	4.4	-0.7
自宅外	352,376	318,028	25.1	23.9	-1.2
他市町村	416,698	407,867	29.7	30.7	1.0
県内	196,081	188,943	14.0	15.0	1.0
他県	220,617	197,223	15.7	15.7	-0.1
県内・他県不詳	0	21,701	—	—	—
不詳 <sup>2)</sup>	16,700	71,394	—	—	—
うち就業者	634,549	596,525	100.0	100.0	0.0
自市町村	282,704	247,014	44.6	41.7	-2.9
自宅	70,698	57,984	11.1	9.8	-1.4
自宅外	212,006	189,030	33.4	31.9	-1.5
他市町村	351,845	345,417	55.4	58.3	2.9
県内	165,805	159,643	26.1	28.4	2.3
他県	186,040	167,994	29.3	29.9	0.6
県内・他県不詳	0	17,780	—	—	—
不詳 <sup>3)</sup>	0	4,094	—	—	—
うち通学者	205,223	191,956	100.0	100.0	0.0
自市町村	140,370	128,998	68.4	67.4	-1.0
他市町村	64,853	62,450	31.6	32.6	1.0
県内	30,276	29,300	14.8	16.3	1.6
他県	34,577	29,229	16.8	16.3	-0.6
県内・他県不詳	0	3,921	—	—	—
不詳 <sup>3)</sup>	0	508	—	—	—

1) 年齢「不詳」を除く。

2) 「年齢」「労働力状態」及び「従業地・通学地」の不詳。

3) 「従業地または通学地」の不詳。

## 2 従業地別就業者

～就業者の従業地別割合は、「自市町村」が男女共に65歳以上が最も高く、「他市町村」は、男性では40～44歳、女性では25～29歳が最も高い～

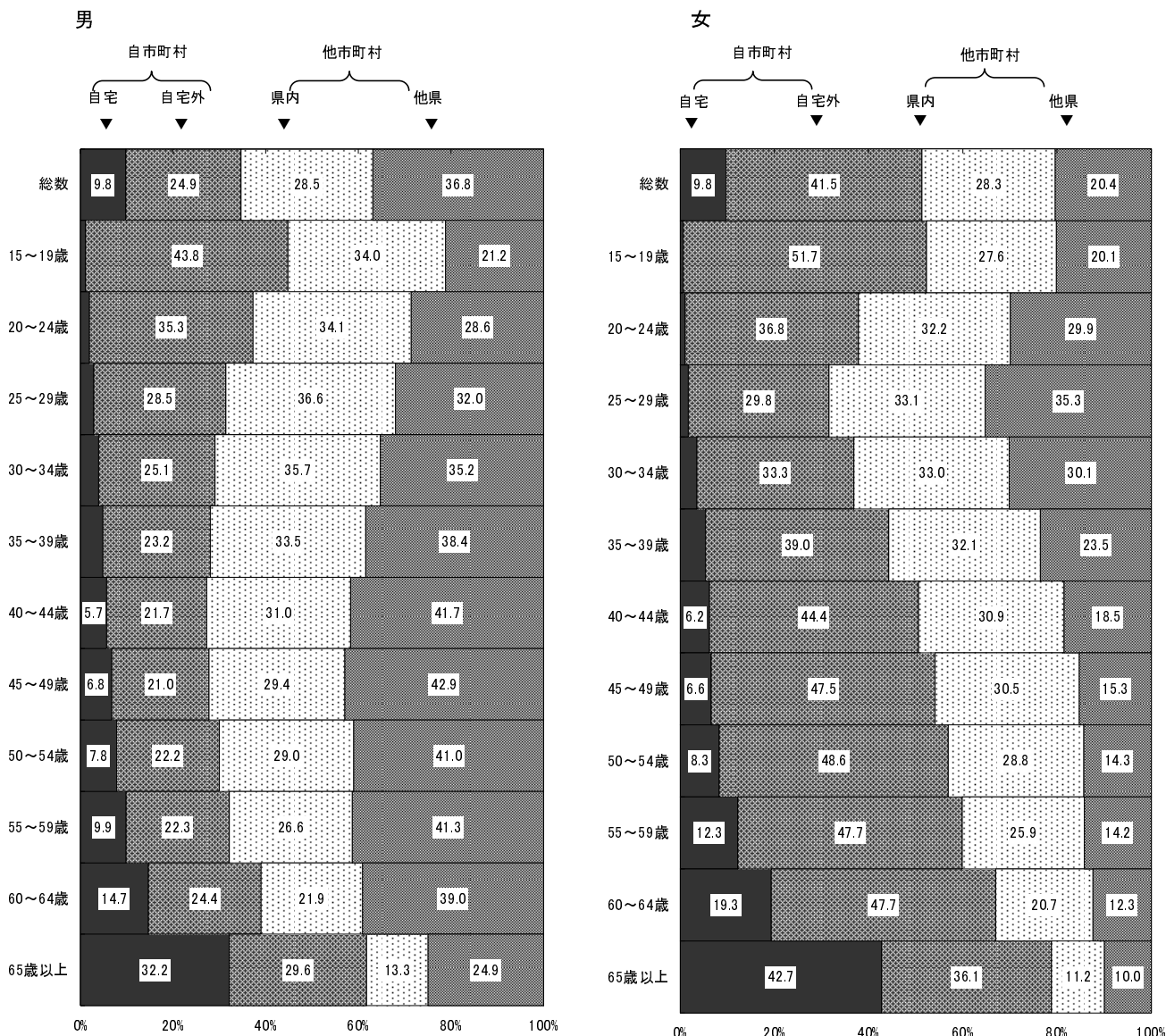
15歳以上就業者の従業地別割合は、「自市町村」が41.7%、「他市町村」が58.3%となっています。

男女別にみると、男性は「自市町村」が34.7%、「他市町村」が65.3%、女性は「自市町村」が51.3%、「他市町村」が48.7%となり、男性の3分の2近くが「他市町村」で従業しています。

男女別、年齢5歳階級別に15歳以上就業者の従業地別割合をみると、「自市町村」は、男性で65歳以上が61.8%と最も高く、次いで15～19歳が44.8%、60～64歳が39.0%となり、女性で65歳以上が78.9%と最も高く、次いで60～64歳が67.0%、55～59歳が59.9%となっています。

「他市町村」は、男性で40～44歳が72.7%と最も高く、次いで45～49歳が72.3%、35～39歳が71.9%となり、女性で25～29歳が68.4%と最も高く、次いで30～34歳が63.1%、20～24歳が62.2%となっています。

図 男女、年齢(5歳階級)、従業地別15歳以上就業者の割合



～県内39市町村のうち25市町村で  
他市町村に従業する人が半数を超える～

15歳以上就業者のうち、自市町村で従業する人の割合を市町村別にみると、十津川村が96.4%と最も高く、次いで上北山村が91.0%、下北山村が89.7%となっています。

市町村別に他市町村で従業する人の割合をみると、安堵町が80.3%と最も高く、次いで上牧町が78.3%、王寺町が78.0%となり、25市町村で50%を超えています。

他市町村のうち、他県で従業する人、いわゆる県外就業者の割合は、生駒市が56.2%と最も高く、次いで王寺町が45.6%、三郷町が45.5%となっています。

**表 他市町村就業者の割合[市町村別]**

上位5位

	市町村名	割合 (%)	他市町村への就業者数(人)	常住する就業者数(人)
1	安堵町	80.3	2,721	3,387
2	上牧町	78.3	7,371	9,523
3	王寺町	78.0	7,359	9,508
4	河合町	77.2	5,663	7,334
5	三郷町	77.1	7,181	9,392

\* 割合は国に準じて計算。他市町村への就業者数には従業地県内・他県の「不詳」を含む。

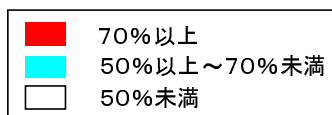
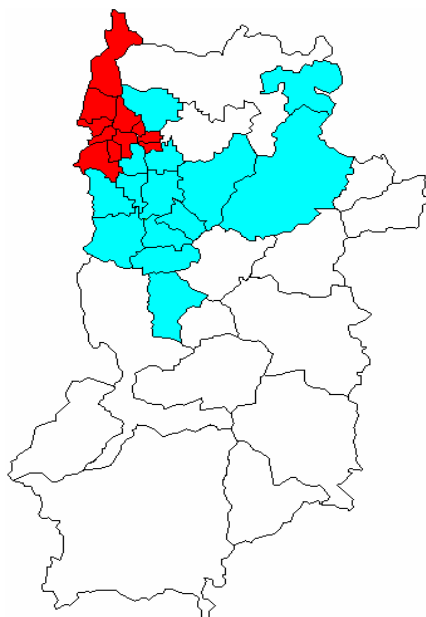
**表 県外就業者の割合[市町村別]**

上位5位

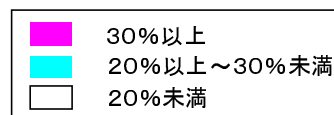
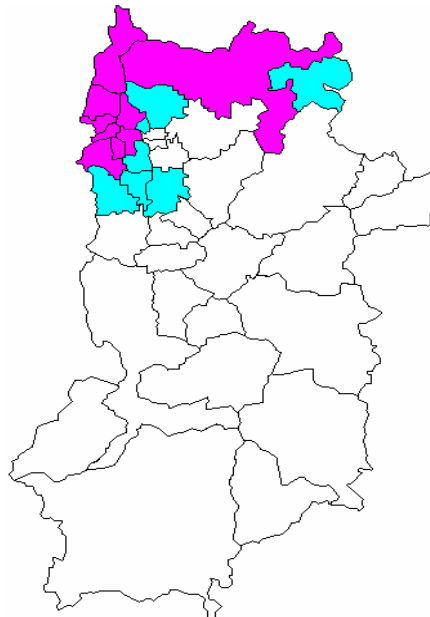
	市町村名	割合 (%)	他県への就業者数(人)	常住する就業者数(人)
1	生駒市	56.2	27,331	50,178
2	王寺町	45.6	4,246	9,508
3	三郷町	45.5	4,146	9,392
4	香芝市	43.6	12,574	30,644
5	平群町	42.0	3,397	8,223

\* 割合は国に準じて計算。

**図 他市町村就業者の割合**



**図 県外就業者の割合**



～奈良県は他県で従業する人の割合が29.9%で全国1位、  
男性は40歳～59歳で40%を超える高い数値～

15歳以上就業者のうち、県外就業者の割合は29.9%で全国1位となっています。  
2位は埼玉県で29.9%、3位は千葉県で28.6%、4位は神奈川県で24.9%と、20%を超えるのは4県で、いずれも大都市周辺の県となっています。

また、本県の県外就業者の割合を男女別にみると、男性が36.8%、女性が20.4%と男性が高くなっています。

年齢(5歳階級)別にみると、男性は25歳から64歳の各階級で30%を超え、40歳から59歳の各階級では40%を超えています。

女性は15歳から39歳の各階級で20%を超え、25歳から29歳の階級で35.3%と最も高くなっています。

表 県外就業率(H2年～H22年)

年	奈良県		全国	
	県外就業者数(人)	割合(%)	県外就業者数(人)	割合(%)
H2	200,235	32.5	4,815,051	7.8
H7	217,403	32.7	5,214,381	8.1
H12	202,563	30.9	5,107,792	8.1
H17	186,040	29.3	5,085,731	8.3
H22	167,994	29.9	4,831,668	8.8

\* 他県への就業者割合は国に準じて計算

図 県外就業率の推移(H2年～H22年)

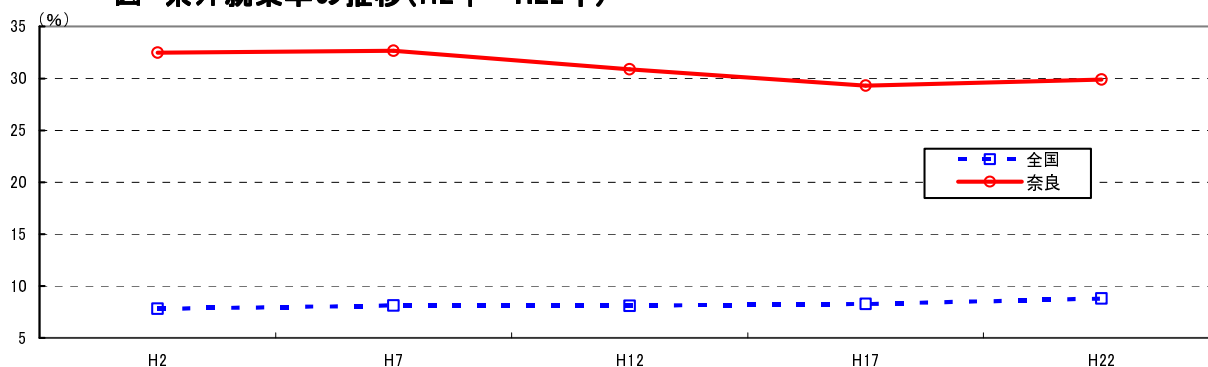
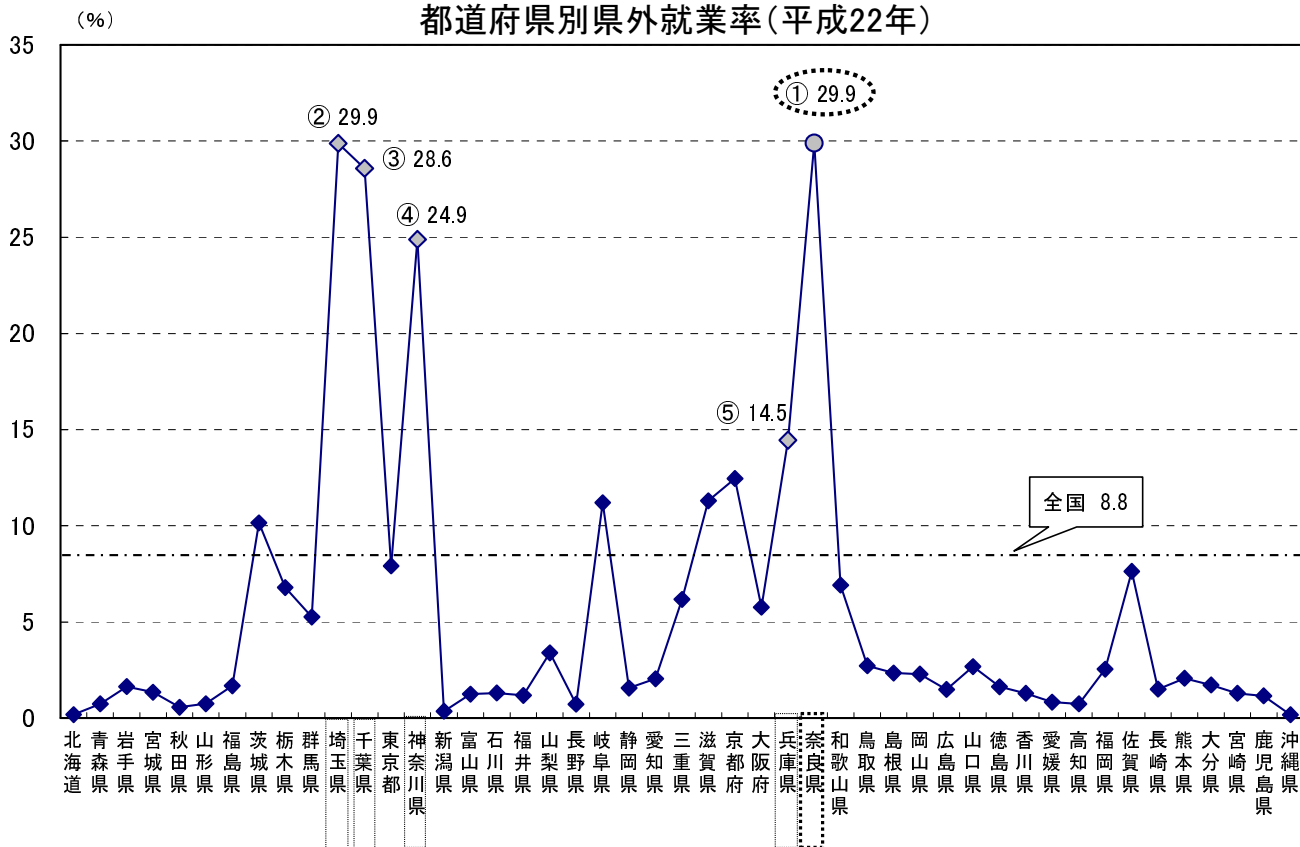


表 男女、年齢(5歳階級)別 県外就業者数と割合(H17年、22年)

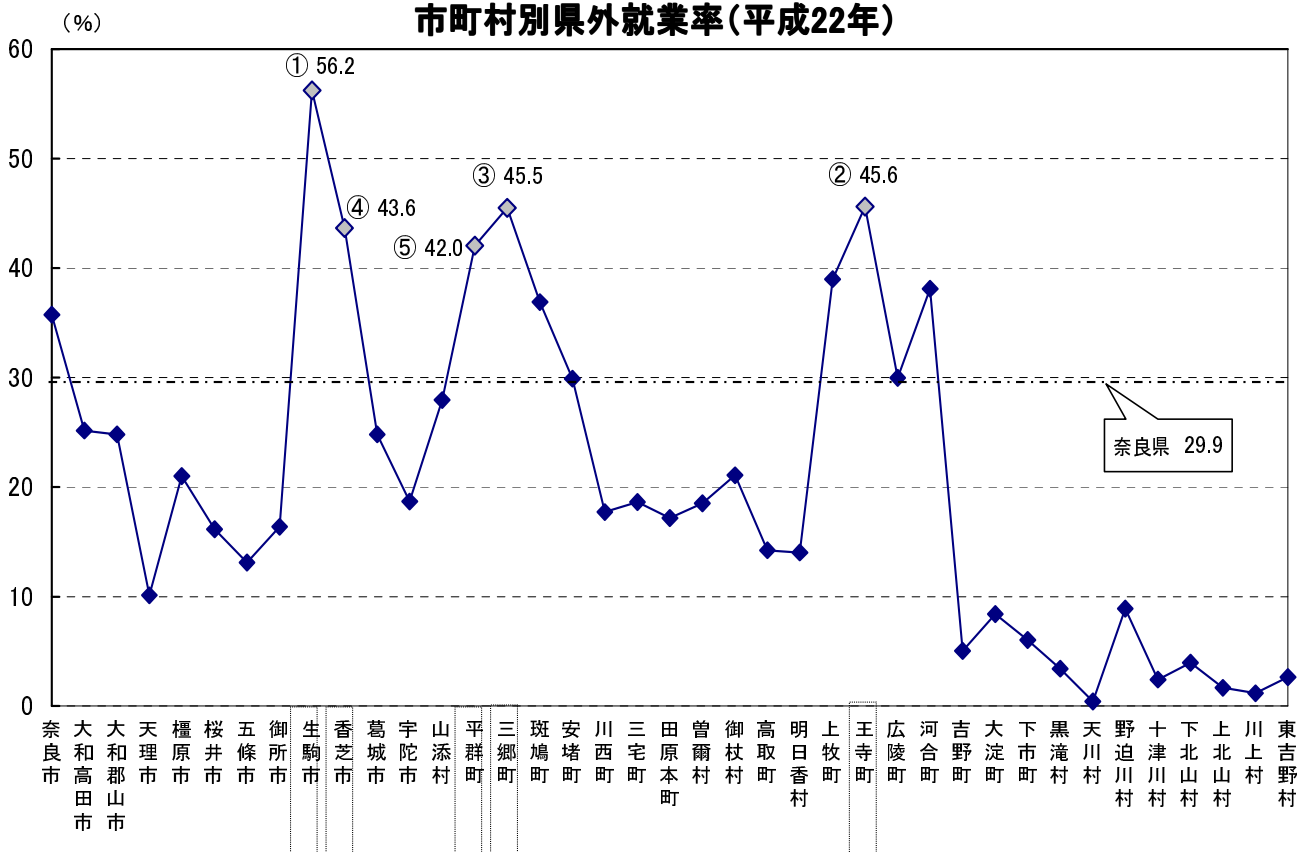
年齢	男性				女性			
	県外就業者数(人)		割合(%)		県外就業者数(人)		割合(%)	
	H17	H22	H17	H22	H17	H22	H17	H22
総数	134,864	119,802	35.7	36.8	51,176	48,192	19.9	20.4
15～19	542	723	12.1	21.2	614	800	12.0	20.1
20～24	4,836	4,750	22.8	28.6	7,497	6,064	29.5	29.9
25～29	10,262	7,894	31.2	32.0	10,341	8,361	35.5	35.3
30～34	14,770	10,714	34.6	35.2	7,976	6,814	29.4	30.1
35～39	15,338	15,090	38.9	38.4	5,348	6,222	21.5	23.5
40～44	15,566	14,756	40.6	41.7	4,186	5,005	15.3	18.5
45～49	14,735	14,616	39.7	42.9	3,773	4,187	13.7	15.3
50～54	17,457	13,461	40.5	41.0	4,173	3,574	14.4	14.3
55～59	21,797	15,366	43.3	41.3	4,093	3,349	14.1	14.2
60～64	12,230	13,783	38.0	39.0	1,791	2,323	11.6	12.3
65～69	4,678	5,532	25.8	29.6	785	896	9.6	10.7
70～74	1,678	2,044	16.5	23.1	368	374	8.1	10.2
75～79	674	706	12.6	16.9	163	150	6.2	9.1
80～84	221	292	11.2	16.9	54	53	5.4	8.3
85以上	80	75	13.8	13.9	14	20	3.6	10.4

\*網掛は、男性40%以上、女性30%以上

都道府県別県外就業率(平成22年)



市町村別県外就業率(平成22年)



### 3 流入・流出口

～奈良県からの流出口は10.6%の減少～

通勤・通学のため、他県から本県に流入している人口(流入人口)は56,012人で、平成17年より3,904人(△6.5%)減少しています。

流入人口を府県別にみると、大阪府からの流入が28,583人、京都府からが17,531人、三重県からが3,734人で、この3府県で流入人口の89.0%を占めています。平成17年と比べると、大阪府からの流入が6.2%減少、京都府からが5.2%減少、三重県からが17.1%減少しています。

一方、通勤・通学のため、本県から他県へ流出している人口(流出口)は197,223人で、平成17年より23,394人(△10.6%)減少しています。

流出口を府県別にみると、大阪府への流出が162,434人、京都府へは19,698人、兵庫県へは5,468人で、この3府県で流出口の95.1%を占めています。平成17年と比べると、大阪府への流出が12.6%減少、京都府へは3.2%増加、兵庫県へは0.9%増加しています。

表 奈良県の流入・流出口の推移

	流入・流出口(人)				割合(%)				増減率(%)		
	平成7年	12年	17年	22年	平成7年	12年	17年	22年	7～12年	12～17年	17～22年
奈良県への流入人口	63,166	61,726	59,916	56,012	100.0	100.0	100.0	100.0	-2.3	-2.9	-6.5
大阪府	34,684	32,480	30,462	28,583	54.9	52.6	50.8	51.0	-6.4	-6.2	-6.2
京都府	16,852	17,768	18,499	17,531	26.7	28.8	30.9	31.3	5.4	4.1	-5.2
三重県	5,671	5,187	4,504	3,734	9.0	8.4	7.5	6.7	-8.5	-13.2	-17.1
和歌山県	2,602	2,838	3,025	3,007	4.1	4.6	5.0	5.4	9.1	6.6	-0.6
兵庫県	2,146	2,314	2,060	2,000	3.4	3.7	3.4	3.6	7.8	-11.0	-2.9
滋賀県	678	623	636	567	1.1	1.0	1.1	1.0	-8.1	2.1	-10.8
奈良県からの流出口	263,281	240,280	220,617	197,223	100.0	100.0	100.0	100.0	-8.7	-8.2	-10.6
大阪府	229,525	206,889	185,833	162,434	87.2	86.1	84.2	82.4	-9.9	-10.2	-12.6
京都府	19,134	18,662	19,092	19,698	7.3	7.8	8.7	10.0	-2.5	2.3	3.2
兵庫県	6,662	5,811	5,420	5,468	2.5	2.4	2.5	2.8	-12.8	-6.7	0.9
三重県	3,627	3,915	4,406	4,062	1.4	1.6	2.0	2.1	7.9	12.5	-7.8
滋賀県	1,031	1,405	1,652	1,692	0.4	0.6	0.7	0.9	36.3	17.6	2.4
和歌山県	1,284	1,354	1,417	1,430	0.5	0.6	0.6	0.7	5.5	4.7	0.9

\* 流入人口は奈良県以外から奈良県への通勤・通学者数(15歳未満も含む)、流出口は奈良県から奈良県以外への通勤・通学者数(15歳未満も含む)

図 奈良県への流入人口

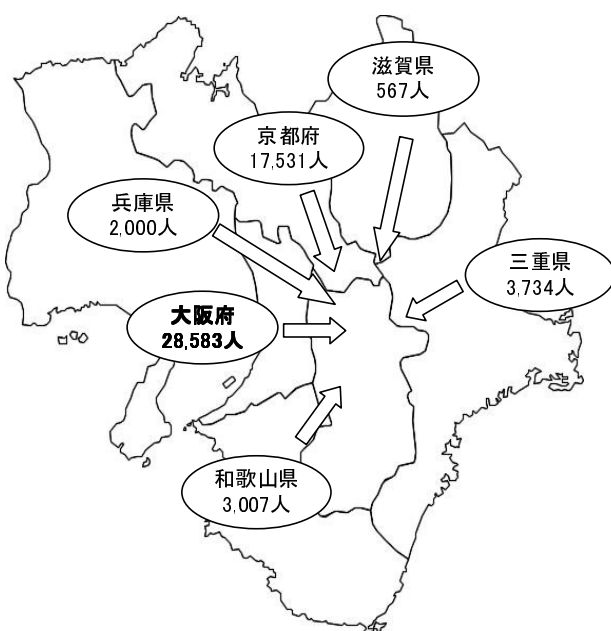
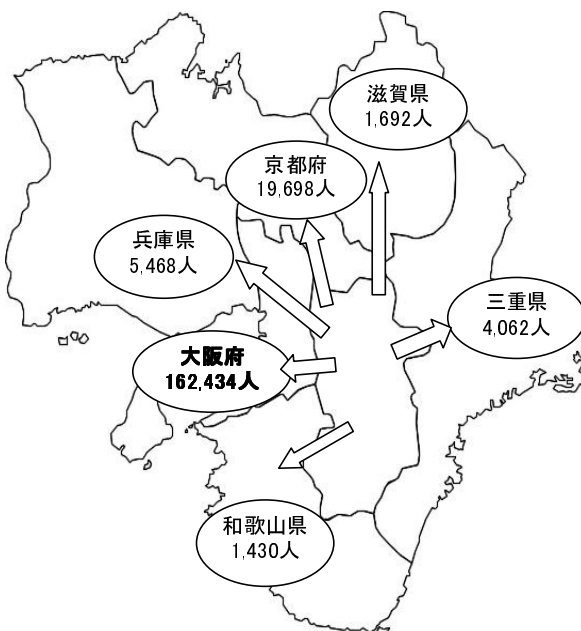


図 奈良県からの流出口



## 4 昼夜間人口

～奈良県の昼夜間人口比率は89.9で全国第45位～

本県の昼間人口は、1,259,517人(全国第32位)で、夜間(常住)人口に比べて141,211人少なく、昼夜間人口比率は89.9となっています。

平成17年より、昼間人口で852人増加、夜間(常住)人口で18,638人減少し、昼夜間人口比率は上昇しています。

市町村別の昼間人口は、奈良市が346,965人と最も多く、次いで橿原市が116,978人、大和郡山市が92,686人となっています。

昼夜間人口比率は下北山村(109.3)が最も高く、次いで上北山村(106.9)、十津川村(104.5)となっています。これに対して、昼夜間人口比率が最も低いのは、平群町(72.4)、次いで三宅町(76.4)、生駒市(77.1)となっています。

平群町は夜間(常住)人口が19,727人で、通勤が4,463人、通学が977人の流出超過、三宅町は夜間(常住)人口が7,440人で、通勤が1,443人、通学が311人の流出超過、生駒市は夜間(常住)人口が118,113人で、通勤が23,002人、通学が4,045人の流出超過となっています。

昼夜間人口比率を都道府県別にみると、東京都(118.4)が最も高く、次いで大阪府(104.7)、愛知県(101.5)で、最も低いのは埼玉県(88.6)、次いで千葉県(89.5)、奈良県(89.9)となっています。

図 奈良県市町村別昼夜間人口比率(平成22年)

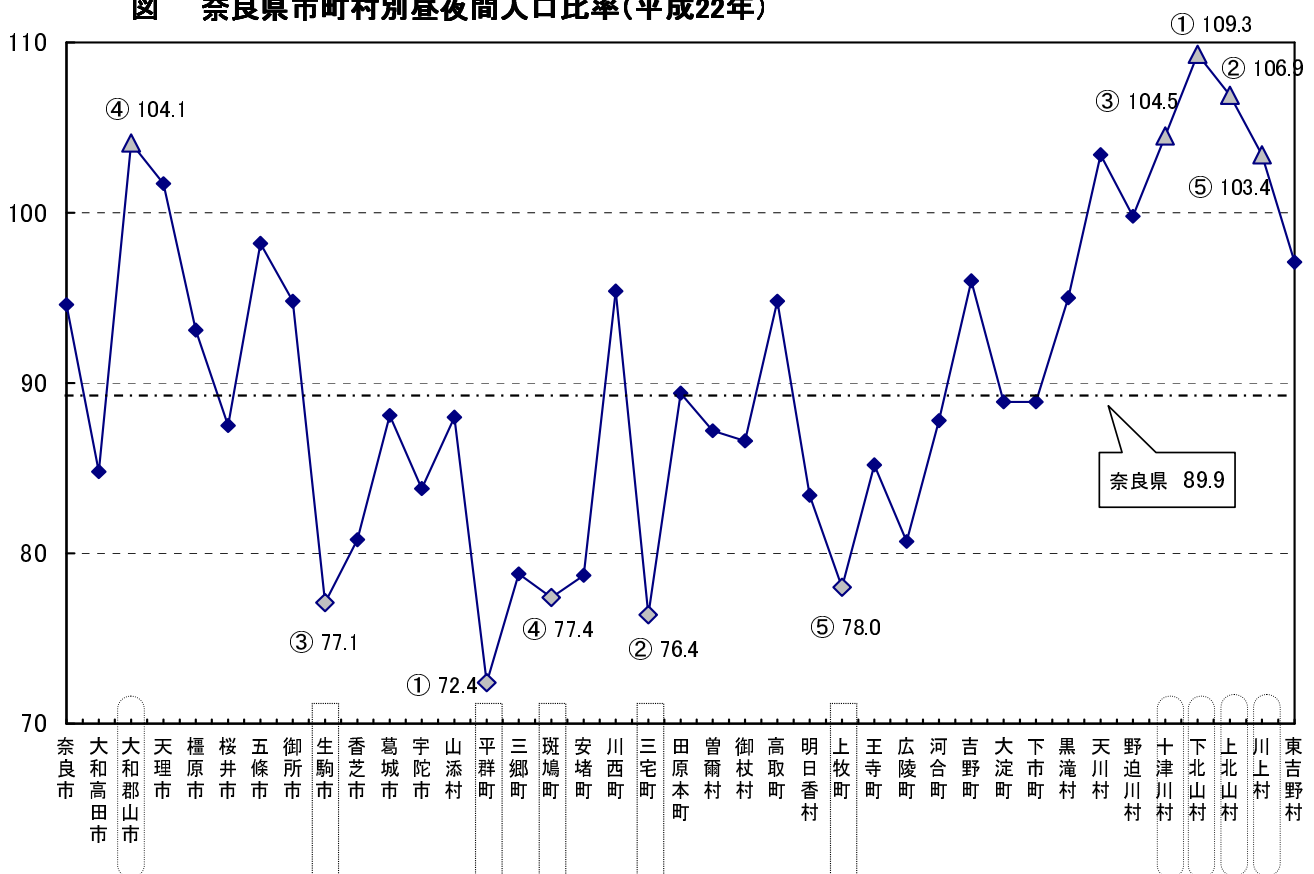


図 都道府県別昼夜間人口比率(平成22年)

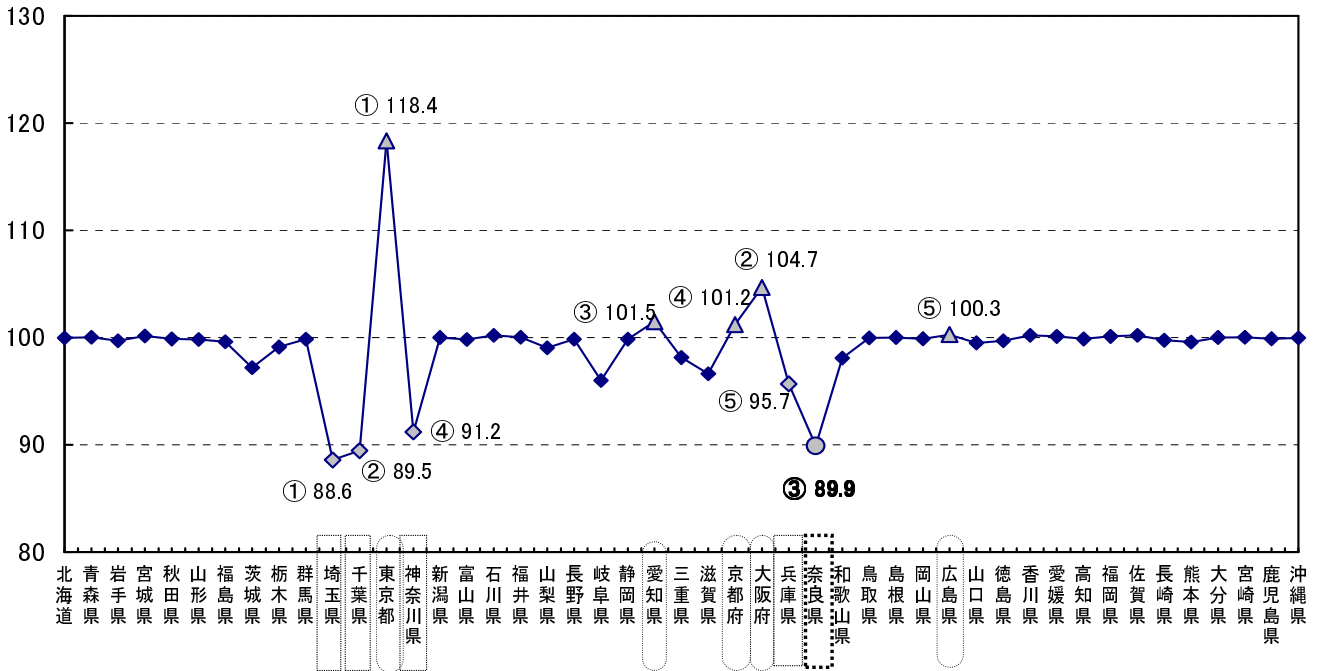


表 昼間人口、夜間人口(常住人口)及び昼夜間人口比率の推移

	奈良県		
	夜間人口 (常住人口) A (人)	昼間人口 B (人)	昼夜間人口 比率 B/A×100
S35	781,058	737,645	94.4
S40	825,965	764,848	92.6
S45	930,160	839,578	90.3
S50	1,077,491	956,626	88.8
S55	1,208,547	1,063,018	88.0
S60	1,304,411	1,136,510	87.1
H 2	1,373,586	1,181,714	86.0
H 7	1,429,871	1,229,756	86.0
H12	1,440,689	1,262,135	87.6
H17	1,419,366	1,258,665	88.7
H22	1,400,728	1,259,517	89.9

\* S55年～H17年の夜間人口(常住人口)は年齢「不詳」を除く。

図 昼間人口、夜間人口(常住人口)及び昼夜間人口比率の推移

